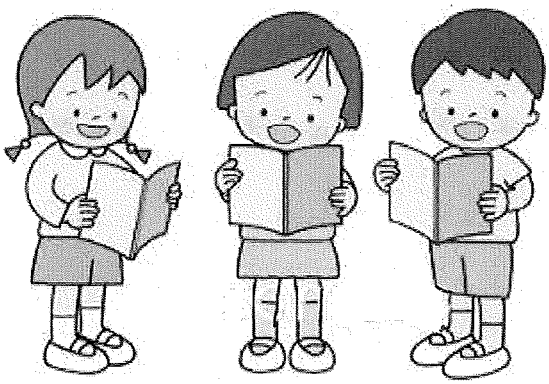
藤崎小学校



さんふじ体験学習をして

藤崎小学校　六年　優奈

今日は、さんふじという福祉せつへ行きました。入ってみると広々とした ロビーがありました。天井がとても高く、たくさんの植物がありました。そのことを不思議に思い質問してみると、お年寄りの方々は、かんたんに外へ行けないから、少しでも外のようなふんいきで過ごしてほしいと思っているのでしょう。

外へ遊びに行きたいと思えば、外へ出られないと思いました。たくさんかんたんに外へ出られるなどの理由でかんたんには外にしが弱くなってちがって、お年寄りの方々は足こしてあるこのお年寄りの方々への気がかいや、エネルギーを知りました。

特に心に残ったのは、車イス体験です。車イスに乗っている人は楽そうだなと思っていた私は、車イスに乗ってみてその考えが変わりました。すごくこわかったし、ふつうの歩くスピードでおしてもすごく遠く感じました。おしてみたら友達におしてみた感想を聞くと、

っすごく難しかったよ。まがるところや、細かいところは、特にごく生き生きしたし、楽しそうです。

難しい。

と言っていました。車イスを使っている人、または、おしている人は、すごく気をつかっている人なと思いました。

さんぽじでは、デイサービスというしせつもありました。

ーービスとは、日帰りで食事や入浴、リハビリ、レクリエーション等をしてくれるしせつです。私のおばあちゃんもデイサービスに週に二、三日通っています。デイサービスにいっているおばあちゃんがいるくらい楽しいそうです。

今日、何をしたか、どんな会話をしたのかなどを楽しそうに話すおばあちゃんを見ていると、私までうれしくなります。おばあちゃんがデイサービスで一番楽しみにしているのは、工作だと話していました。お正月になるとおばあちゃんがデイサービスで作ってきた、えとの置き物をげんかんにかざるのがこういい物になりました。そのほかにも、いろいろな置き物やケースを作ってきます。すべて大事にとっておいています。

デイサービスでの、みんなとの会話や、職員さんの笑顔、工作や手芸、食事が一週間の楽しみだと話していました。デイサービスの日は、すごく生き生きしていて楽しそうなおばあちゃん。職員さん達のおかげで長生きできているのかもしれないと思いました。

そのほかにもさんふじでは、食事に気をつかっていると話していました。例えば、おかゆをミキサーでとろとろにして歯ぐきでくけるくらいのかたさにしていました。そのように細かいところまで気をくばってつくる食事はとてもおいしんだろうなと思いました。

このようにさんふじには、お年寄りの方々が楽しんでくらせる工夫がたくさんあることがわかりました。職員の方は、どんなに小さいことにも気を配り、お年寄りのことを第一に考えていると感じました。もし自分が、お母さんやお父さんのかいごをするようになったら、今回の体験学習のことを思い出したいと思いました。

お年寄りの方々や、私のおばあちゃんに生きがいをくれるさんふじはいとてもすばらしいしせつでした。

体験学習から学んだこと

藤崎小学校　六年　村上　瑠唯

今日、老人ホームのさんふじに体験学習に行ってきました。

私は、このさんふじに行くまでは、老人ホームの事は一つもわからなかったし、どのような仕事をしているのかもわかりませんでした。

老人ホームについて、介護の人がやさしく待っていてくれました。ある部屋で老人ホームのくわしい事や、介護のお仕事はどのような事をしているのかなどを教えてもらいました。

教えてもらった後は、四つのグループに分かれて、老人ホームの中を見学しました。老人ホームはとても広くて、体育館みたいでした。たくさんの事が工夫されてありました。

まず、水道はお年寄りでカがない人のために、指一本でじゃ口をそうさできたり、かがみが少しなめになっていたり、工夫が見られました。その他にも、お風呂はねたまま入れるものがあったり、部屋はふつうのゆかの部屋もあれば、たたみの部屋もあったりと、

たくさんのお年寄りや障がい者のための工夫がされていました。

車イスをおす体験もさせてもらいました。おしている人が思っている以上に、乗っている人はこわく感じてしまうので、ふつうの速さよりも少しおそくしてあげたり、声がけをしたりしながら、乗っている人にきょうふ感をあたえないようにする工夫がありました。私はその工夫に気をつけながらおしました。ゆっくりおすことだけに気をつけていたら、声がけすることをわすれてしまいました。なので介護の人はたいへんだなと思いました。

お年寄りの人は、介護の人といっしょに、牛乳パックを小さく切ったのを積み重ねていくというのをやっていました。とても楽しそうでした。

私たちの発表は、お年寄りの人が手拍子や拍手をしてくれてうれしかったです。練習よりもうまくできて、今までで一番良かったと思います。四十五人、心が一つになっていました。泣いているお年寄りもいて大成功だったと思います。

介護のお仕事はとてもたいへん

で、自分でごはんを食べることのできないお年寄りや障がい者にごはんを食べさせてあげるお手伝いや、体をきれいに洗ったり、かみのもをかわかしたり、着替えのお手伝いをすることなどその他にもたくさんの事があって、とてもたいへんだと思います。それでも介護の人はとても笑顔で楽しそうに介護の仕事を行っていました。

もしも、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが家でお世話できなくなってしまっても自分にできる事を一つでも探して、それをきちんと行いたいです。

もし、道などを歩いている時にお年寄りが歩いていて困っているようであれば、やさしく声をかけてお年寄りを助けてあげたいです。そして、何か少しのことでも協力できるやさしい人になっていきたいです。

みんなでこれからは、「ちりも積もれば山となる」ということわざのように一人一人が少しの親切をしてそれを大きな親切にかえていきたいです。

今日の、さんふじ体験学習からいろいろなことを学びました。老人ホームはいろいろな工夫が

あるだけでなく、介護の人のお年寄りへの接し方で、とてもお年寄りの人は元気で百才をこえている人もいて、みんな笑顔でした。

今日のさんふじ体験学習はとても良い経験となりました。

とても、おじいちゃんやおばあちゃんがかわいかったです。

今日のことは、一生わすれない最高の思い出です。

一人一人に合わせた工夫

藤崎小学校　六年
齊藤　拓登

ぼくのひいおばあちゃんは、施設のデイサービスを利用していました。ですから、総合的な学習の時間に、特別養護老人ホームさんふじを訪問させていただけることになった時、老人ホームとはどんなところなのだろうと、とても興味がありました。老人ホームとはおじいちゃん。おばあちゃんがいるところだとは思いましたが、体の不自由なおじいちゃん。おばあちゃんもいるのか、体の不自由な人にはどのように接すればよいのかなど、いろいろ考えながら訪問しました。

さんふじで、まず、気づいたことは、車いすを使っているおじいちゃん・おばあちゃんが多いということです。ぼくのひいおばあちゃんもそうでしたが、高齢になってくると足腰が弱くなります。そして、自分の足を自力でうまくうごかすことができなくなります。そうなった時に役に立つのが車いすです。ぼくは、実際に車いすを体験させてもらうことができました。自力で車輪を回して動かすこ

とはできるけれども、少しでも登り坂にさしかかったら、すぐに腕が疲れます。小さな段差でもかなり腕の力が必要だということがわかりました。これでは力の弱い方には大変なことだと思いました。さんふじでは、車いすの人が移動する時に、必ず職員の方が押してあげている理由がよくわかりました。

さんふじの建物の中には、車いすの人が利用しやすいように、たくさんの工夫がありました。車いすでも入りやすいようにトイレの個室が広く、入り口がカーテンになっていました。また。車いすに座ったままでも見やすいように洗面所の鏡が斜めになっていました。通路の段差をなくしたり、通路に余計なものを置かない工夫もしているそうです。ぼくは、よく考えられているなあと思いました。

車いすのための工夫だけでなく建物の中にはいろいろな工夫や設備がありました。その中でも、健康やリハビリのための施設が充実していることに驚きました。歩行の訓練や体力作りのために大きなスロープや階段があって、おじいちゃん。おばあちゃんは、手すりにつかまりながら安全に歩く練習

ができる設備がありました。その他にも、トレーニングジムのような機械もたくさんありました。ベッドのようなマッサージ機では、おばあちゃんが気持ちよさそうに寝ているようでした。その機械はとても人気があって、いつも誰かが利用していると施設の方が話していました。高齢になり、体が不自由になってきたからといって、その状態に合わせた生活をさせるだけではなく、体の機能を回復させるような設備があることで、高齢者も若返り、長生きできるのではないかと思いました。

職員の方の説明の中で、一番心に残っていることは、食事のことです。さんふじでは、利用するおじいちゃん・おばあちゃん一人一人の好き嫌いやかむ力の強さに合わせて食事のメニューを考えているそうです。おかゆ一つにしてもご飯の粒がわかるものから、ミキサーでドロドロにやわらかくしたものまで、何段階にも用意するという工夫をしていました。このように細かい心づかいをして高齢者の健康な体のために食事の用意をしているなんてすごいなぁと驚きました。

さんふじでは、老人ホームの他に、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、居宅介護支援事業、ホームヘルプサービスなども行っているそうです。高齢者一人一人の体力や病気の状態などに合わせて、どのようなサービスが最適かを考え選択できるようになっているところが素晴らしいと思いました。高齢者のことを第一に考えた優しさあふれる施設を見学することができて、これから、自分が高齢者とどのように接していけばよいのかの勉強になりました。

今できること

藤崎小学校　六年
齋藤　孝行

皆さんはお年寄りの気持ちになって考えてみたことはありますか。ぼくは、特別養護老人ホームさんふじを訪問するまで、深く考えたことがありませんでした。ぼくの家にはおじいちゃんがいますが、ぼくは、自分がいらいらしている時、おじいちゃんに冷たい態度をとってしまうことがありました。しかし、さんふじを訪問して、自分の態度をとても反省しました。そして今できることを考えました。

特別養護老人ホームさんふじには、お年寄りがなるべく元気な時と同じように「食べる」「動く」「寝る」生活ができるようにするためのたくさんの工夫があって、すごいと思いました。

食事の準備は、家庭であっても一人一人に合わせた食事を作ることは大変です。さんふじには、たくさんのお年寄りがいて、その一人一人がかむ力や飲み込む力が違うのですが、それぞれに合わせた食事を準備しているそうです。ご飯だけでも、粒があるものから、柔らかいおかゆ、粒が少ないおか

ゆ、ミキサーにかけて完全にどろどろにしたおかゆまで、何段階もあるそうです。おかずも、健康のために野菜をたくさん食べてほしいということで、ただ柔らかくするだけでなく、ゼリーにしたりスムージーにしたり工夫しているという話でした。お年寄りが使う食器も、スプーンですくいやすい形になっていたり、コップも飲みやすい形になっていたりしていました。このような細かい工夫は、家庭ではなかなかできないと思いました。

さんふじの建物の中には、お年寄りが動くためのたくさんの工夫もありました。まず、ほとんどの場所が、バリアフリーになっていて、手すりがついていました。トイレは、車いすでも動きやすいようにとても広く、もちろん全部洋式で、おしりを拭かなくてもいいようにウォシュレットだったし、何かあったときのために、個室に呼び出しブザーもありました。ぼくは、手洗い場の鏡が斜めになっていたので驚きました。斜めだと見にくいのに、なぜこうなっているのだろうと思いながら話を聞いたら、車いすの人が体全体を写し

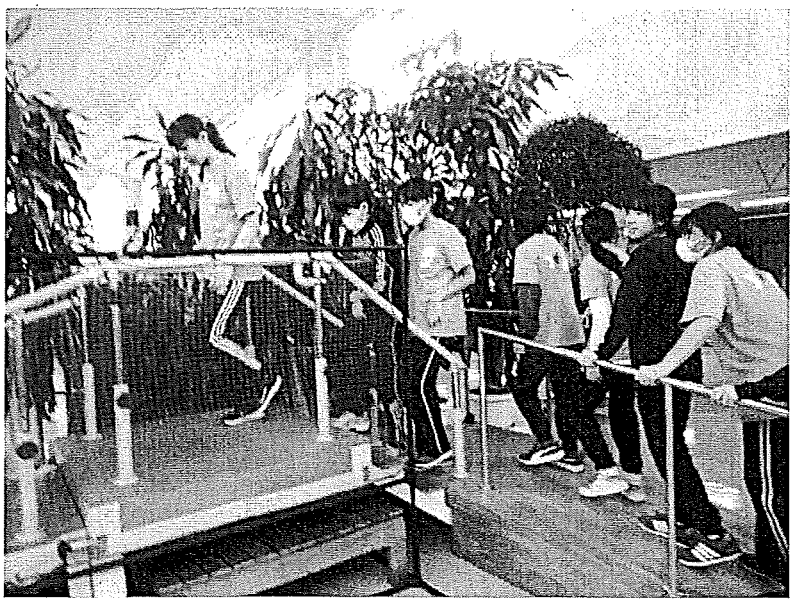
て見ることができるような角度になっていると聞いて納得できました。すごくいい工夫だと思いました。

泊まる部屋は、利用するお年寄りに合わせて、一人部屋から複数の人で使う部屋までありました。ベッドは、体が不自由なお年寄りでも使いやすいように高さや形が変わるベットでした。一人で起き上がることが難しい人のために、いすのように背もたれができたり、ひざのところが持ち上がったりするベッドを見て、すごいなあと思いました。これなら、起き上がることが大変なお年寄りでも寝たきりにならず、がんばろうという気持ちになるだろうなと思いました。

建物や設備の他にも、職員の方々が考える行事にも工夫をしているという話も聞きました。ぼくたちが見学をした時には、牛乳パックを積み重ねるゲームをしていました。これは、指先や体のバランスを使ったり、一緒にやる人とコミュニケーションをとったりすることで、運動機能面にも脳にもよい刺激になるということでした。ぼくも、こういうゲームは、認知

症の予防になると思いました。

さんふじを見学して、ぼくは自分のおじいちゃんのことを考えました。ぼくのおじいちゃんは、年をとってきて耳が遠くなったり、老眼になったりしています。ぼくのおじいちゃんや、さんふじにいたお年寄の人たちのように、誰でもみんなだんだん年をとっていくんだなあと思いました。そして、命あるものは、必ずみんないつかは死ぬんだと考えました。

だから今、自分の機嫌が悪いからと言っておじいちゃんに冷たい態度をとると後悔すると思います。

今を大事に、優しくして、手伝いもできる限りしようと思いました。これから、もっと年をとっていくおじいちゃんのために、今できることは何かを考えて、家族としてサポートしていこうと思いました。